

「コンサートソムリエ」の肩書を持つ、フリーアナウンサーの朝岡聡さん。かつて「ニュースステーション」で初代スポーツキャスターとして活躍した実力派。張りのある声と軽妙な語り口で演奏者や指揮者とトークを繰り広げ、音楽ファンのすそ野を広げている。

🎤 アナウンサーを志す

子どものころからラジオ好き、喋りで人を喜ばせるのが大好きで、小・中・高とずっと放送委員でした。僕が高校・大学生だった1970年代後半、アナウンサーが原稿を読むだけでなく自分の言葉で語り、人気を博すようになりました。例えばザ・ベストテンの久米宏さんのようにね。そんな姿に憧れて、将来は放送の世界で働きたいと思うようになったんです。

大学卒業後、テレビ局に入社。当時、喋りを鍛えるにはまずスポーツ実況という会社の方針があり、夏の甲子園やプロレス番組をやりました。入社して3年目の秋、「ニュースステーション」が始まり、スポーツコーナーの担当に。プロ野球優勝チームのビールかけに、普通なら濡れてもいい服で行くところを紋付き袴やタキシードで行くなど、面白く伝えようとスタッフとあれこれ考えましたね(笑)。思うところがあり35歳でフリーアナウンサーになりましたが、局アナとしてさまざまなことを学んだ13年間でした。

🎤 ずっと音楽が好き!

40歳を過ぎたころ、レギュラー番組が終わったタイミングで、自分の好きなことを極めるのは今しかない!と直感し、ヨーロッパへオペラを観に行こうと思立ちました。実は僕はずっとクラシック音楽が好きで、それから1年半くらい、月に1回、2泊3日くらいでヨーロッパに行き、名所旧跡を巡り、オペラを観て、名物料理を食べてという「プチ留学」をしました。その体験を「音楽の友」という雑誌に連載して。思えばこれが今の仕事に繋がる転機になったんですね。

音楽、特にリコーダーが小学生のころから好きでした。中・高と吹奏楽部で、後輩には後にロックグループ「レベッカ」のリーダーになった土橋くんがいて、彼はサクソホン、僕はトランペットだったんですが、二人でよ

く練習の合間に、バロック音楽の二重奏をリコーダーで吹いていました。楽しかったなあ。大学受験の際に何気なくめくっていた慶應義塾大学の赤本で、体育会や同好会の紹介ページに「慶應バロック・アンサンブル」という名前を見つけて、その日から受験勉強のモチベーションが上がりました(笑)。

リコーダー好きに始まったバロック音楽などの「古楽」と、大人になってから夢中になった芝居・音楽・文学という三つの魅力が詰まった「オペラ」。この二つが僕の音楽ライフの二本柱です。

🎤 肩書は「コンサートソムリエ」

コンサートに行ったらプログラムを見ても、「何年に誰々が書いた交響曲です」だけではよくわからないでしょう? 専門用語が並んでいたり。そこで司会者の僕が、作曲家や作品の背景、多くの人に愛される理由などをお話して、では今日の演奏はどうでしょうね、と演奏が始まる。フレンチレストランでソムリエが説明してくれるように、そしてソムリエに勧められたワインを飲んで「うまい!」と感じると同じように、音楽も納得してより深く楽しんでもらいたい、と考えた肩書が「コンサートソムリエ」。僕の造語です(笑)。

みなさんに音楽を生で感じられるチャンスを存分に楽しんでいただきたい。そして自分が続けてきた好きなことの積み重ねと、アナウンサーとして磨いてきた「喋り」で、オンリーワンの世界をつかっていきたいですね。

🎤 趣味の世界を横浜で

仕事以外のアナザーワールドを持っていると人生がより豊かになります。仕事で何かあっても趣味の世界にいったん心を移すと、煮詰まらない。ただ、趣味とは、ちょっと気が向いた時にやる「気晴らし」とは違いますよ。



ヨコハマ vol.96
ヨコハマ 想い

フリーアナウンサー/
コンサートソムリエ
朝岡 聡さん
Asaoka Satoshi

1959年横浜市生まれ。1982年テレビ朝日にアナウンサーとして入社。報道番組「ニュースステーション」初代スポーツキャスターとして活躍。フリーとなってからはテレビ・ラジオ・CM出演のほか、クラシック・コンサートの司会や企画構成にも活動のフィールドを広げる。日本ロッシーニ協会副会長、東京芸術大学客員教授。著書に『恋とはどんなものか』(歌劇(オペラ)の恋愛のカタチ)(東京新聞)ほか。

素晴らしい人生に
素敵な趣味あり

レベルアップするよう経験を積み重ねていくのが趣味です。

ガーデニングも好きです。というのは、庭園は僕の大好きなヨーロッパ文化の原点だから。イタリアでルネッサンス庭園を探訪して、写真と文章で紹介したいというのがこれからの夢です。

僕は戸塚区生まれで、小学校に上がるころ都内に引っ越しましたが、結婚を機に横浜に戻りました。歴史も好きで、幕末明治が好きなので、やはり横浜に惹かれます。山手の辺りには西洋館や教会が今も残っていて。何といても西洋文化の入り口であった街ですからね。小さな庭で花を愛で、大好きなアンティークに囲まれて暮らしています。

🎤 音楽の力で世界平和を

今、欧米企業のエリートが美術館の講座で学び、美意識を磨くというムーブメントが

あります。ルネサンスの昔ではパトロン、また身近なところでは三溪園の原三溪氏なども、自分の美意識に合うものを集めて市民に公開しましたよね。上に立つ人が傑作の構図をヒントに判断力を磨く。芸術にはそんな力があるんです。

世界では主義主張が対立し人々の心が分断されることがあります。混乱の中にあって「音楽なんて聴いている場合ではない」という考え方もありますが、そんな時だからこそ、共感し心で繋がるのが大切で、それを担っているものの一つが音楽なのではないかと思うんです。

避難でこたえ返す駅にポツンと置かれたピアノでメロディーを奏でる。避難所にあつて声を合わせて国歌を歌う。そんな映像を目にすると、「音楽の力」を感じずにはいられません。音楽に対する愛情をたくさんの方が持ち、繋がってほしいと切に願います。

全日程 無料公開 若き才能120名の演奏に出会える6日間

第9回 野島 稔・よこすかピアノコンクール

主催/(公財)横須賀芸術文化財団
共催/横須賀市



横須賀出身の世界的ピアニスト 野島 稔の名を冠したこのコンクールは、若く才能あるピアニストの発掘と育成を目的として2006年に創設されました。音楽界で名高く実績を重ねる5名の審査委員が音楽性や将来性も考慮して総合的に評価します。

参加者の平均年齢は21.8歳、全国から120名の若手ピアニストが参加。予選から本選まで、1800人収容可能な本格オペラハウス仕様の大劇場で実施します。

開催期間 2021年5月16日(月)~22日(日) 各日11時~

第1次予選 5月16日~18日 課題曲:エチュード

第2次予選 5月19日~20日 課題曲:ベートーヴェンの指定のピアノソナタの全楽章演奏
本選・表彰式 5月22日 リサイタル形式(35~40分)

全日程 無料公開 ※予約不要 ※未就学児童入場不可

会場 よこすか芸術劇場 ※全日程を大劇場で実施(京急「汐入駅」徒歩1分)

審査委員 審査委員長:野島 稔 審査委員:東 誠三、伊藤 恵、上野 真、梅津 時比古



「聴衆賞」に投票して若き才能を応援!

第2次予選と本選それぞれで、「最も印象に残り、感銘を受けた演奏」を一般投票により決定します。劇場で演奏を聴き、印象に残った演奏に投票しよう。

横須賀芸術劇場

問合せ TEL 046-828-1603
野島 稔・よこすかピアノコンクール事務局
詳細は公式webサイト

